

# ビワ生育情報

千葉県  
平成24年7月号

## 最近1年間の気象及びビワの生育状況

平成23年7月から平成24年6月までの月別の気象は表1に示した。月平均気温は平成23年7～11月は平年を上回り、平成23年12月から平成24年2月は平年を下回った。平成24年3、4月は平年並みで、5月は平年を上回ったが、6月は平年を下回った。この1年間の平均気温は15.5℃で平年並みであったが、寒暖の差が激しい年であった。

本年産のビワの生育状況を振り返ると、平成23年の梅雨明けは7月9日で平年より12日早かった。梅雨明け後から夏の間は平年より高く推移した。花房の着生率は平年よりやや高かった。花房の出蕾は3品種共にやや遅かった。関東に接近した台風は6個（内1個は平成24年6月）あり、樹にはさしたる被害はなかったが、収穫の遅れた園では、落果が見られた。冬の訪れは遅く、開花の進みは3品種共に早かった。冬は寒さが厳しく（最低気温-3℃以下の日が5日）、寒害の被害は平年より多かった。12～4月の低温の影響で、果実の生育は平年より遅かったが、5月の気温は平年より高く推移し、その結果、果実の肥大は進み、最終的には収穫期は平年並みか2～3日遅れた程度であった。

表1 平成23年7月～平成24年6月の気象（暖地園芸研究所）

年	月	気温(℃)			降水量(mm)			日照時間(hr)		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
H23	7	25.7	24.3	26.7	100	193	206	193	175	225
	8	25.9	25.8	27.9	57	154	47	234	220	275
	9	24.1	22.7	24.6	148	247	268	207	146	198
	10	18.3	17.9	18.2	324	253	404	139	137	90
	11	14.5	13.2	13.6	153	150	163	129	144	142
	12	7.1	8.6	10.0	153	83	131	160	166	175
H24	1	4.4	6.0	5.0	54	87	1	114	169	220
	2	5.2	6.3	7.6	161	97	138	122	151	121
	3	9.1	9.1	8.4	200	182	60	156	154	212
	4	13.4	13.8	14.3	210	172	104	171	166	229
	5	18.1	17.7	18.0	168	176	228	211	186	166
	6	19.7	20.7	22.0	196	240	136	125	135	112
平均/計		15.5	15.5	16.4	1,924	2,034	1,886	1,961	1,949	1,965

平年：1968～2011年の平均

## 本年度産果実の特徴

### 1. 熟期

収穫期は表2に示した。暖地園芸研究所における収穫始期、盛期及び終期はそれぞれ、「楠」が5月31日、6月5日、8日、「大房」が6月8日、11日、13日、「田中」が6月12日、16日、20日で、「楠」及び「田中」は平年並みで、「大房」は平年よりやや遅れた。4月までの天候不順から一転し、5月は天候に恵まれたため、果実の成熟が急速に進んだ。さらに、「田中」の収穫前1週間の気温は平年より高く、着色が進んだ。収穫期間はやや短かく、生理落果が多く見られた。

表2 収穫期（暖地園芸研究所）

品 種	収穫始期(月.日)			収穫盛期(月.日)			収穫終期(月.日)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
楠	5.31	5.30	5.31	6.5	6.3	6.1	6.8	6.8	6.8
大房	6.8	6.3	6.8	6.11	6.8	6.11	6.13	6.12	6.15
田中	6.12	6.12	6.14	6.16	6.17	6.19	6.20	6.22	6.24

平年：1983～2011年の平均

### 2. 果実の大きさ及び収穫量

収穫果実の大きさは表3に示した。果重は「楠」が52g、「大房」及び「田中」は3地区の平均でみるとそれぞれ81g、66gであった。「楠」及び「大房」は平年並みであり、「田中」は平年を12%程度下回った。

横径は「楠」が4.6cm、「大房」及び「田中」は3地区の平均でみるとそれぞれ5.3cm、4.8cmであった。「楠」及び「大房」は平年並みで、「田中」は平年を下回った。縦径は「楠」が4.6cm、「大房」及び「田中」は3地区の平均でみると5.2cm、5.1cmであり、3品

種共に平年を下回った。

果形指数は「楠」が1.00、「大房」及び「田中」は3地区の平均でみるとそれぞれ1.01、0.94であった。「楠」は平年を上回り、「大房」及び「田中」は平年をわずかに上回った。3品種共には平年よりやや丸みを帯びた果形であった。

本年の着花房率は平年より高かったが、寒害の被害が多かった。着果量は「楠」は平年並みかやや少なく、「大房」及び「田中」は平年よりやや多かったが、カメムシの被害が多かった園では、収量は平年より減少した。

### 3. 糖度及び酸度

果実の糖度及び酸度は表3に示した。糖度は「楠」が13.2、「大房」及び「田中」は3地区の平均でみるとそれぞれ11.7、11.6であった。3品種共に平年より高かった。

酸度は「楠」が0.14、「大房」及び「田中」は3地区の平均でみるとそれぞれ0.13、0.34で、「楠」及び「大房」は平年より低く、「田中」は平年より高かった。

### 4. 食味

果実硬度及び糖酸比は表3に示した。果実硬度は「楠」が0.55、「大房」及び「田中」は3地区の平均でみるとそれぞれ0.58、0.55であった。「楠」及び「大房」は平年並みで、「田中」は平年より軟らかかった。

糖酸比は「楠」が92、「大房」が95、「田中」が34であった。3品種共に糖度は高かったが、「楠」及び「大房」は酸が低く、食味はやや不良であった。「田中」は糖、酸共に高く、また、果汁も多かったため、濃厚な味であった。

### 5. 病害虫及び生理障害の発生

本年は果樹カメムシのフェロモントラップ誘殺数が平年より多く、産地における発生量は平年より多かった。クワゴマダラヒトリの食害は平年より多かった。裂果の発生がやや多かったが、そばかす、紫斑、日焼け、たんそ病等の障害果の発生は平年並みであった。「大房」及び「田中」は角張った果実が平年よりやや多かった。

表3 果実の大きさ及び品質

品種	調査地	果重(g)		横径(cm)		縦径(cm)		果形指数		糖度(Brix)		酸度(g)		硬度(kg)		糖酸比	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
楠	暖地園研	52	53	4.6	4.5	4.6	4.8	1.00	0.95	13.2	11.9	0.14	0.18	0.55	0.54	92	65
	青木	71	81	5.1	5.4	5.1	5.4	1.00	0.99	11.8	10.3	0.11	0.15	0.58	0.58	104	67
	大房南無谷	79	78	5.2	5.2	5.2	5.4	0.99	0.98	11.8	10.3	0.13	0.17	0.56	0.58	94	59
	暖地園研	93	80	5.5	5.3	5.4	5.4	1.04	0.97	11.5	11.1	0.14	0.20	0.61	0.59	85	56
	平均	81	80	5.3	5.3	5.2	5.4	1.01	0.98	11.7	10.6	0.13	0.18	0.58	0.59	95	61
田中	青木	55	75	4.6	5.1	4.6	5.4	0.98	0.93	12.5	11.1	0.40	0.27	0.52	0.57	31	41
	大房南無谷	67	73	4.7	5.0	5.2	5.5	0.90	0.90	10.5	9.9	0.34	0.31	0.56	0.59	31	32
	暖地園研	75	78	5.0	5.1	5.4	5.5	0.93	0.93	11.9	11.1	0.29	0.32	0.58	0.58	41	34
	平均	66	75	4.8	5.1	5.1	5.5	0.94	0.92	11.6	10.7	0.34	0.30	0.55	0.58	34	36

果形指数：横径／縦径 糖度：屈折糖度計の測定値 酸度：果汁100ml中の酸含量をリンゴ酸(g)に換算した値  
 硬度：果実硬度計による測定値 糖酸比：糖度／酸度  
 平均：3地区の平均、平年：1983～2011年の平均(但し硬度は2000～2011年の平均)

## 8月～10月の作業

8月下旬から9月下旬までがせん定及び施肥の適期となる。9月中旬頃には花芽の確認ができるようになる。10月に入ると花芽の発育が進み、花房の形を表し、10月上中旬には摘房・摘らいの作業が始まる。

### せん定

8月下旬から9月中旬に行う。徒長枝あるいは混んでいる枝を間引いて、樹冠内部に光が入るようにする。二段盃状形の樹形を目指し、低樹高化に努めて、作業の効率化を図る。

### 施肥

9月に基肥を施用して花房の伸長、充実を図る。耕土の浅い園では10a当たり分量で窒素12kg、リン酸9kg、加里9kgを施用し、耕土の深い園ではそれぞれ11kg、9kg、7kgとやや少なめにする。

### 摘房・摘らい

摘房は発育不良の花房や混み合った花房を間引き、1樹の全枝の半数に花房を残す。摘らいは花房基部から3段目までの小花梗の中から充実した2段を残して他をかき取る。また、花房の長さが3～5cmの時に摘らいすることで、開花期間を延長させることができ、寒害の被害を受けにくくすることが出来る。

【問合せ先：千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 果樹・環境研究室 電話0470-22-2961】

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生産技術に関する情報」でもご覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/nousui/nourinsuisan/nourinsuisan.html>